

(Japanese Academy of Learning Disabilities)

日本LD学会会報

第12号



事務局：東京学芸大学心理学研究室内 〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL&FAX. 0423-27-2890



LDとともに未知を旅する

— 会長就任にあたって —

日本LD学会会長
東京学芸大学教授

上 野 一 彦

日本LD学会第3回大会を、多くの方々のLDへの強い関心と、熱い取り組みの姿勢をひしひし感じつつ無事終了することができ、大会会長としてここから感謝いたします。

この大会は、日本LD研究会から本学会への名称変更後の最初の大会であり、研究会設立にご苦労された長瀬会長はじめ皆様の思いを、学会としてどう発展させるか、そのことがいつも胸中にありました。

学会への名称変更は単にアカデミズムへの憧憬ではなく、教育や臨床と確実に結びつく科学こそが今、求められていることを真摯に受けとめ、教育実践において心理学や医学などの近接する専門分野が、どのようにLDの発達によりよく関与できるかを、学際的に考えていこうとする動向の反映と受けとめています。

大会を通じ、LD児の教育や指導に直接たずさわる方々と、研究者や専門家たちとの緊密な関係、そして、それらを支える保護者の協力こそが、この学会の特徴であることを再認識しました。

今回の総会において、学会会長の大役を長瀬先生から引き継ぐことになり、非才の身としてじくじたる思い多々あります。LDという言葉を接点に、一步一步さまよいながら、ころをひとつに努力してきた諸先輩、仲間、そして保護者の皆さんの気持ちを支えに、この未知なるLDへの旅を続けてみようと思つた次第です。

平成7年度からは、わが国のLDへの文部行政も本格的に動き始めるようです。その概念・診断基準（適合性の判定）の明確化、指導システムの整備、指導者の養成、個別教育プログラムの作成と実践、効果の測定と評価、社会自立と生涯教育の展望など、われわれが取り組まなければならない課題が山積しています。

この学会がLDの研究と実践に関心を持つすべての人々にとって、最新かつ有益な情報の発信基地であり、交換の場となるだけでなく、個の特性に応じた「人間尊重」の21世紀の教育・医療全体にも好ましい影響を与えるものになることを祈念しつつ、ご挨拶といたします。